

2022-2024 年度課題別研修「文化遺産を活用した持続可能な観光開発」に係る
参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構関西センター（以下「JICA 関西」という。）は以下の業務について、別紙 2 のとおり参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、開発途上国から研修員として日本に招いた観光開発分野の開発の中核を担う人材に対し、所定の案件目標を達成するべく、文化財の適切な保全と活用並びに持続可能な観光開発推進について必要な知識や技術に関する研修を行うものです。

本業務の遂行にあたっては、学校法人立命館（以下「特定者」という。）を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算したうえで契約を締結する予定です。

特定者は過去に連続して観光開発分野の研修の受注実績があり、開発途上国の文化遺産を保有する地域で文化財保全や景観保全業務に携わる人材育成の知見が蓄積されている。また、立命館大学歴史都市防災研究所を有しており、その活動の 1 つとしてユネスコと「文化遺産と危機管理」という高等教育機関と研究機関の能力向上を目的とした研修プログラムを実施し、教育・研究機関、地域コミュニティ、国内外との連携・協働を促進し、人的・物的なシンクタンクとなっている。

当該研修の対象分野である「文化財保護」「観光振興」に対して伝統的建造物群保全地区（町並み保存）や文化財の観光資源としての保全・管理・活用手法に長けた知見とプログラムの企画力および学術分野、民間分野を含む人材ネットワークのハブ機能を有し、産学官民から多様な講師を招聘できるほぼ唯一の機関である。

これらの理由から、特定者は、以下「2 応募要件」を満たし、本件業務を適切にし得る要件を備えていると考えますが、特定者以外の者で応募要件を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

1 業務内容

別紙 2 「研修委託契約業務概要」の通り。

2 応募要件

（1）基本的要件：

- ① 業務内容を遂行する法人としての能力を備え、実施体制を構築できる者。
- ② 2022 年度を第 1 回目として受託し、2024 年度まで計 3 回、同一案件を受託可能である者。本件公募は 2022 年度、2023 年度、2024 年度に実施する研修（3 回分）を対象に実施しますが、契約は年度ごとに分割して締結します。なお、各年度の契約を締結する際には、前年度の業務実施状況が良好であることを確認のうえで、契約を締結します。（ただし、研修対象国の状況など、予期しない外部条件が生じた場合を除きます。）

（2）資格要件等：

- ① 公示日において、令和 04・05・06 年度全省庁統一資格競争参加資格（以下「全省庁統一資格者」という。）を有する者。
なお、全省庁統一資格保有者でない者で参加意思確認書を希望する者は、

必要な書類を提出していただくことで、当機構における参加資格審査を受けることができます。

- ② 一般契約事務取扱細則第4条第1項の規定に該当しない者。
具体的には、会社更正法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。
- ③ 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成20年10月1日規程（調）第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていない者。具体的には以下のとおり扱います。
- ・ 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
 - ・ 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受付けます。
- ④ 以下を要件のいずれにも該当しないこと、また、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約する者。
競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者（以下、「提出者」という。）は、以下のいずれにも該当しないこと、および、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約して頂きます。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。
- なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加意思確認書を無効とします。
- ア. 提出者の役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成16年10月25日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という。）である。
 - イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2号第6号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
 - ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
 - エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
 - オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
 - カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
 - キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
 - ク. その他、提出者が兵庫県の暴力団排除条例（平成22年兵庫県条例第

35号)に定める禁止行為を行っている。

⑤法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)(平成26年12月11日特定個人情報保護委員会)」に基づき、個人情報及び特定個人情報等(※1)を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

(中小規模事業者(※2)については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。)

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

(※1) 特定個人情報等とは個人番号(マイナンバー)及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

(※2) 「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・個人番号利用事務実施者
- ・委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・金融分野(金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野)の事業者
- ・個人情報取扱事業者

3 手続きのスケジュール

(1) 参加意思確認書の提出	提出期間	2022年5月6日(金)10時から2022年5月20日(金)12時まで
	提出場所	〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 JICA 関西研修業務課(担当:三浦)
	提出書類	別紙3 参加意思確認書 別紙4 資格審査申請書 別紙5 誓約書 応募要件に該当する全省庁統一資格を有していない者は、参加意思確認書に記載の提出資料一式(写し可)

	提出方法	メール、持参又は郵送で提出（郵送の場合は書留としてください。） メール送付先： Miura.Sadako@jica.go.jp 及び jicaksic-unit@jica.go.jp メールタイトル：【2022-2024 年度課題別研修「文化遺産を活用した持続可能な観光開発」参加意思確認書の提出（社名〇〇）】
(2) 審査結果の通知	通知日	2022 年 6 月 3 日（金）
	通知方法	メール又は郵送で通知（参加意思確認書を提出した団体のみ、提出のあった方法に応じて通知） ※なお、特定者には、JICA 関西ホームページ上（調達選定結果）で通知する。
(3) 応募要件無しの理由請求	請求場所	〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 JICA 関西 研修業務課（担当：三浦）
	請求方法	メール、持参又は郵送で提出（郵送の場合は書留としてください。） メール送付先： Miura.Sadako@jica.go.jp 及び jicaksic-unit@jica.go.jp メールタイトル：【2022-2024 年度課題別研修「文化遺産を活用した持続可能な観光開発」参加意思確認公募／応募要件無しの理由請求（社名〇〇）】
	請求期限	2022 年 6 月 10 日（金）
	回答方法	メール又は郵送で回答

4 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等を、参加意思確認書等の審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書の差替え及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。（上記3（3）を参照ください。）
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名競争入札（総合評価落札方式）または指名による企画競争を行います。その場合の日時、場所等の詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して、別途連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。
- (9) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本通貨に限ります。
- (10) 契約保証金：免除します。

(11) 共同企業体の結成を認めます。

共同企業体の結成を認めます。ただし、共同企業体を構成する社、又は代表者及び構成員全員が、上記2(1)(2)の応募資格を満たす必要があります。共同企業体を結成する場合は、「共同企業体結成届」(様式はありません。)を作成し、「参加意思確認書」に添付してください。結成届への代表者印及び構成員すべての社の社印は省略可とします。

(12) メール送信の際の留意点は以下のとおりです。

- ① メールの受信制限があるため、送付メールの容量は20MB以下としてください。
- ② データ容量が大きい場合は、上記、参加意思確認書(別紙3)のPDFデータを受領後1営業日以内に、提出された「参加意思確認書」に記載されているメールアドレスに対して、大容量データ受け渡しサイト(ギガポッド)のURLと、同URLにログインするためのIDとパスワードをメールで送付します(ただし、パスワードについては、別メールにて送付します)。同URLにアクセスし、IDとパスワードを入力してログインの上、提出する書類を同サイトにアップロードした後、必ずメールにて担当者へ一報ください。
- ③ 上記大容量データ受け渡しサイト(ギガポッド)が利用できない場合は、郵送又は持参で提出してください。
- ④ JICA 関西では、受信内容を確認の上、24時間以内に(土・日・祝日をはさむ場合は翌営業日の17時まで)受信確認メールを送付しますが、万一連絡がない場合は、JICA 関西へ問い合わせをお願いします。メール提出時刻から24時間以内の問い合わせは原則受けませんので、電子メールにより提出する場合は早期の提出を推奨します。

担当部課：JICA 関西研修業務課

以 上

研修委託契約業務概要

※以下の記載は 2022 年度に関するものです。2023 年度及び 2024 年度の計画については、研修期間や対象国の変更を含めて当該年度に決定します。

1 研修コース概要:

(1) 研修コース名

課題別研修「文化遺産を活用した持続可能な観光開発」

(2) 研修期間 (予定)

① 全体受入期間: 2022 年 10 月 2 日から 2022 年 11 月 5 日まで

② 技術研修期間: 2022 年 10 月 4 日から 2022 年 11 月 3 日まで

※2022 年度の実施は来日研修を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況をみてオンライン研修に変更になる場合があります。2023 年度・2024 年度は、各年度 1 回ずつ、来日を中心とした研修を実施する予定ですが、今後の状況を見て実施方法を決定します。

(3) 対象となる研修員 (予定)

① 定員 : 4 人(予定)

※加えて国別研修ヨルダン 4 人上乗せ (予定)

② 対象国 : ミクロネシア・ブラジル・イラク・エジプト

③ 対象組織・対象者:

文化遺産を保有する地域の文化財保全または景観保全に基づく観光開発を担当する省庁等に属する行政官

(4) 使用言語

英語 (講義等は、英語で実施する。ただし、対応困難な場合は、JICA が通訳を手配して対応する。)

(5) 研修の背景・目的

観光はその関連産業を含めると世界の GDP の 10.4%、雇用の 9.9% を占めており、2016 年の世界輸出に占める観光関連産業のシェアは 7% に達している。既存の国内資源の活用による外貨獲得、関連業種の幅広さ、雇用吸収力の点から観光産業は途上国の多くで有望かつ期待の高い産業である。しかしながら、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、最もダメージを受けることとなり真に持続可能でレジリエントな観光産業振興の必要性が浮き彫りとなった。

関西地域には京都や大阪、奈良、和歌山県等の地域の文化遺産を世界遺産に登録するための活動を行った経験があり、これらの自治体等団体は観光客から適切に収益が得られるようにするための「観光地域づくり」の多様な経験などの多くの知見を有し、それらは研修員の参加国にとってより強固な施策を考案する上で有益な情報である。

(例)

・世界遺産登録までの工夫とプロセス

- ・観光客の誘致、それに伴う地域経済の活性化
- ・各地域において国内外からの観光客に対して魅力的なプロモーション

本研修は文化遺産（国指定文化財（有形・無形）等）を保有する地域において文化遺産保全と景観保全に基づく観光開発を担当する行政官を対象に、上述の関西地域の特色を生かし、持続可能な観光の視点から地域主体の文化財保全及び観光開発、ユニバーサルツーリズム、防災と観光等（文化財防災を含む）に焦点を当て、講義や討議、フィールドワークを実施する。また、コロナ禍でのインバウンド需要が見込めない状況への対策として、国内観光需要喚起のための文化財観光開発等に触れ、よりレジリエントな観光産業振興を行える体制づくりのための知見を養うことを目的とする。

（６）案件目標

文化遺産の適切な保全と活用を通じた持続可能な観光開発推進のための活動計画を策定する。

（７）単元目標（アウトプット）

1. 自国の文化遺産の活用状況と課題について分析する。
2. 日本の文化遺産の管理と観光開発について、国及び地方自治体の政策、法制度、運営・管理体制を理解する。
3. 文化遺産の防災対策と災害発生時の危機管理の概要を理解する。
4. 文化遺産の保全とユニバーサルツーリズムの推進の概要、手法、運営、管理体制を理解する

（８）研修項目

1. 他国の現状と比較し、自国の状況や問題点を理解するレポート発表
2. 1) 日本の文化遺産管理及び観光開発に関する国及び地方自治体の政策、法制度について及びその実施手法や自国への適応策の講義
2) 日本文化遺産の管理及び観光開発に関する取り組み事例の視察
3. 1) 文化遺産の防災対策及びその周辺地域の自然災害対策等の取り組みに関する講義
2) 文化遺産の防災対策及びその周辺地域の自然災害対策等の取り組み事例の視察
4. 1) ユニバーサルツーリズムを促進する関連法制度、手法、運営及び管理体制についての講義
2) ユニバーサルツーリズムの取り組み事例視察

（９）研修付帯プログラム（参考情報：JICA 関西が実施するプログラム）

- ア. ブリーフィング（滞在諸手続き）：来日翌日 0.5 日間
通常来日の翌日に、来日時事務手続き・滞在諸手当の支給手続き等についての説明を JICA において実施する。
- イ. プログラム・オリエンテーション（研修概要説明）：来日翌日 1 時間程度
- ウ. ジェネラルオリエンテーション：来日 2 日後 1 日間
技術研修に先立って、日本滞在中の必要知識として、日本の社会・政治・

経済・文化などについて、JICAにおいてオリエンテーションを行う。
エ. 評価会及び閉講式：技術研修最終日 0.5 日間

2 委託業務の範囲及び内容

(1) 契約履行期間（予定）

2022 年 6 月下旬～2022 年 12 月下旬

（この期間には、事前準備・事後整理期間を含みます）

(2) 業務の概要

文化遺産を保有する地域の文化財保全または景観保全に基づく観光開発を担当する省庁等に属する行政官に対し、研修目標達成のために文化財の活用、保護、管理、運営についての日本の事例や制度を紹介し、活動計画を策定するための指導・助言を行う。

(3) 業務（研修）実施方法

① 講義：

テキスト・レジュメ等を準備し、必要に応じて視聴覚教材を利用して研修員の理解を高めるよう工夫する。なお、これらの翻訳・印刷が必要な場合には、原則 JICA 又は JICA が指定する団体を通じて行うため、これらとの密な調整を行うこと。

② 演習：

講義との関連性を重視し、テキストを参照しながら講義で学んだ内容の確認と応用力を養えるように工夫し、帰国後の実務に役立つことを目指す。

③ 各種発表会の実施、討議の先導：

研修員のレポート発表会における実施準備や進行管理、研修員間の討議の先導を行う。

④ 見学・研修旅行：

講義で得られた知見を基に、現場視察や関係者との意見交換を通じて、研修員が当該研修分野に関する理解を深められる旅行計画を策定する。なお、旅行に伴う移動手段・宿泊は、原則として JICA 又は JICA が指定する団体を通じて行うため、これらとの密な調整を行うこと。

⑤ レポート作成・発表：

各レポートの作成・発表に当たっては、各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深めるよう配慮し、併せて帰国後の問題解決能力を高めるよう努める。

(4) 業務の実施方法

上記1 (5) の目的を達成するために、以下の業務を実施する。

①研修実施全般に関する事項：

- 1) 日程・研修カリキュラムの作成・調整
- 2) 研修実施に必要な経費の見積り及び経費処理
- 3) 研修実施要領の確認（評価項目・評価基準の策定）
- 4) コース評価要領の作成
- 5) 研修員選考会への出席
- 6) JICA 関西、その他関係機関との連絡・調整
- 7) 研修監理員との調整・確認
- 8) コースオリエンテーションの実施
- 9) 研修の運営管理とモニタリング
- 10) 研修員の技術レベルの把握（個別面接の実施等）
- 11) 各種発表会の実施
- 12) 研修員作成の各種レポートの分析・評価
- 13) 各種発表会の実施、討議の先導
- 14) 研修員からの技術的質問への回答
- 15) 評価会への出席、実施補佐
- 16) 開・閉講式への出席、実施補佐
- 17) 反省会への出席
- 18) 講義・見学の評価

②講義（演習・実習）の実施に関する事項：

- 1) 講師の選定・確保
- 2) 講師への講義依頼文書の発出
- 3) 教材の複製や翻訳についての適法利用の確認
- 4) 講義室及び使用資機材の確認と使用申請手続き
- 5) 講義テキスト・資機材・参考資料の準備・確認、教材利用許諾範囲の確認
- 6) 講義等実施時の講師への対応
- 7) 講師謝金の支払い
- 8) 講師への旅費・交通費の支払い
- 9) 講師（又は所属先）への礼状の作成・送付

③見学（研修旅行）の実施に関する事項：

- 1) 見学先の選定・確保と見学依頼文書又は同行依頼文書の作成・送付
- 2) 見学先への引率
- 3) 見学謝金等の支払い
- 4) 見学先への礼状の作成・送付

3 契約金額

JICA が定める基準に基づき積算した見積書を基に、契約交渉を経て決定する。

4 本業務に係る報告書の提出

本業務の報告書として、業務完了報告書と経費精算報告書を各1部ずつ、技術研修期間完了後速やか（契約履行期間終了の10営業日前まで）に提出する。

5 留意事項

- (1) 当機構は、本研修コース実施にあたって英語－日本語の逐次通訳等を行う研修監理員を1名配置予定です。研修監理員は、JICAが実施する研修員受入事業において、JICA、研修員及び研修実施機関の三者の間に立ち、当該言語を使用しつつ（通訳）、研修員の研理解を促進し、研修効果を高め、研修進捗状況を現場で確認する等、研修コースでの現場調整を行う人材です。JICAは登録された研修監理員の中から、研修コースごとに研修コースの特性等を勘案し、諸条件を提示して個別に業務を発注します（委任契約）。
- (2) 研修員及び同行者（上限1名）の研修旅行にかかる国内移動・宿泊については、当機構が別途委託している旅行会社が手配を行います。
- (3) 本業務概要は予定段階のもので、詳細については変更となる可能性があります。
- (4) 研修員受入事業及び研修委託契約の概要を含む研修委託契約の各種ガイドライン、契約書等については、以下JICA HPを参照願います。
https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html

以 上